



上/これからの農業への期待に胸ふくらませる美穂さんと母の貴美代さん
左/害虫を退治してくれる益虫は美穂さんの畑のスタッフ



「以前の仕事もやりがいにはありましたが、地球環境に配慮した取り組みに関心が高まって。両親の背中を見て育ち、農業は大変な

「以前の仕事もやりがいにはありましたが、地球環境に配慮した取り組みに関心が高まって。両親の背中を見て育ち、農業は大変な

今回の散歩は、県道熊本高森線の木山交差点から北へ向かいました。役場前で「坂本ライスセンター」を営む坂本家は一年の大仕事の稲刈りを終えたばかり。笑顔で迎えてくれたのは坂本貴美代さんと次女の権藤美穂さんです。

安心安全な農業を目指して

早いもので12月。一年はあっという間ですね。さて、2024年の締めを飾る「わがまち散歩」は宮園・市ノ後地区。世の中の動きは目まぐるしいけれど、穏やかに暮らしを営みながら、笑顔に満ちあふれた人たちとの出会いがありました。

みやぞの いちのしろ 宮園・市ノ後



ズッキーニも育っていました



美穂さんの環境配慮型栽培のはじめの一步となる小さな畑

貴美代さんは「自分たちはそろそろ

「草は大切な資材で、マルチ材や堆肥の材料に使います。作物の見た目や形は悪くても、このことを理解して食べてくださる方が増えますよ」と願って汗を流しています」と

仕事だとは思いましたが、今やらないと後悔すると思ったんです」と家業を継ぐ決心をしました。

天才画家、現る

権藤美穂さんの長女で、小5の美樹さんが描く鉛筆画を見せてもらい、その完成度の高さにびっくり。本紙10月号の「まちなかPickUP」でもご紹介しましたが、美樹さんはなんと、たった数カ月前から自己流でスケッチ画を描き始めたそうです。人や動物は顔の中心部から描き始め、スマホで撮影した写真を見ながら2時間ほどで完成させます。「鼻から描き始めると、顔のバランスが取れるから」と理にかなった美樹さんの返答に感心することしきり。



スマホの写真をしながら描いたという犬のスケッチ画